

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和3年5月27日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立第三小学校 第6学年、全児童

実施児童数（ 25 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数、中学校は国語及び数学。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、知識・技能に関する内容と、それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は全国より、約 15 Pt 低い。下位層が多く、上位層が少ない傾向がみられる。
平均正答率（本校 50／泉佐野市 60／大阪府 63／全国 64.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問	
1（二） 資料を用いた目的を理解する。 (56.0/74.9)	〈課題として考えられるもの〉 3（二） 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが ら、自分の考えが伝わるように書き表し方を 工夫する。 (52.0/56.6)	
3（一） 自分の主張が明確に伝わるように、文章 全体の構成や展開を考える。 (32.0/64.8)	1（三） 目的や意図に応じ資料を使って話す。 (76.0/81.0)	
3（三）イ 文の中における主語と述語の関係を捉 える。 (40.0/67.0)		
〈正答率が低いもの〉		
2（三） 目的に応じ、文章と図表と結びつけて、 必要な情報を見つける。 (16.0/34.4)		

○学年別漢字配当表の漢字が正しく書けていない。また、無回答の児童が多い。

○主語と述語、修飾語の文の構成が理解できていない。

○〇字以上～〇字以内などにまとめるなど、必要な情報を見つれたり、中心となる語や文を見つけて要約したりする問題に課題が見られる。

○書く力、読み取る力がないのか、書こうとしないのか、書けないのか、特に、書くということが苦手な児童が多いので、何らかの手立てが必要かと思われる。

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好き	48.0	58.4	○	10.4
国語の勉強は大切だと思う	92.0	93.2		1.2
国語の授業の内容はよくわかる	72.0	84.2	○	12.2
国語の授業で学習したことは、将来役に立つ	92.0	91.8		0.2
国語の授業で、目的に応じて表現を工夫している	64.0	71.6	◇	7.6
国語の授業で、自分の考えを広げたりしている	60.0	74.3	○	14.3
国語の授業で、必要に応じて質問したりしている	56.0	63.8	◇	7.8

○国語の勉強の内容がよくわかると答えた児童の割合は低く、72.0%であった。国語の授業が好きではないと答えた児童の割合が50%を超えている状況が大きく影響しているのではないかと考える。

○国語の勉強は大切である、将来社会に出たときに役に立つと考えている児童は多く、国語の授業の有用性については理解している。

○国語の授業において、表現の工夫や考えを広げる意識、必要に応じて質問しようと思う意欲がやや低いことが気になる。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は全国よりも17.2 Pt 低い。下位層，中位層が多く，上位層が少ない傾向が見られる。
平均正答率（本校 53／泉佐野市 68／大阪府 70／全国 70.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問	
<特に正答率が低いもの> 3 (3) データの分類 (36.0／67.5) 4 (2) 整数÷整数 (24.0／55.5) <正答率が低いもの> 2 (3) 図形の構成 (24.0／46.0) 2 (1) 直角三角形の面積 (32.0／55.1)	<正答率が高いもの> 1 (4) 時刻 (84.0／89.2) 3 (2) 棒グラフの読み取り (84.0／90.7)	

○算数におけるどの要素の活用を行うかが理解できていない（問題内容の読解ができていない。）

○文章から数式につなげるイメージができていない。

○公式など，基本的な習熟ができていない。（三角形の図形など）

○グラフの読み取りなど具体物等の理解は比較的高い。

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好き	44.0	67.8	○	23.8
算数の勉強は大切だと思う	92.0	93.8		1.8
算数の授業の内容はよくわかる	56.0	84.6	○	28.6
算数の授業で学習したことは，将来役に立つ	88.0	92.6		4.6
算数の授業で，普段の生活で活用できない考える	60.0	73.9	○	13.9
算数の授業で，公式やきまりのわけを理解するようにしている	72.0	89.0	○	17.0
算数の授業で，問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている	76.0	91.9	○	15.9

○算数の勉強の内容がよくわかると答えた児童の割合は低く、56.0%にとどまった。算数の勉強が好きではないと答えた児童の割合が50%を超えている状況が大きく影響しているのではないかと考える。

○算数の勉強は大切である、将来社会に出たときに役に立つと考えている児童は比較的多く、算数の授業の有用性については理解している。

○算数の授業において、普段の生活に活用できないか考えることや公式や決まりの訳を考えることに意欲的でない。ノートを活用する意欲も少し低いように思う。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【学校生活の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しいと感じている子どもの割合が低い。 ・概ね、人とのつながりを肯定的にとらえている子どもが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校に行くのは楽しい <72.0/83.4> ○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う <92.0/96.8> ○人が困っているときは、進んで助ける <84.0/88.7> ○友達と協力するのは楽しい <92.0/93.9>
【学校での学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ・協働的な学習や創造的な活動を通して、自ら考え、学びを深め合う視点で学習にとりくんだり、学習を振り返って次の学習につなげたりすることに関して意識的にとりくんでいる子どもの割合が低い。 ・基礎基本の学習の理解やふりかえりの仕方などの学び方を意識した指導の工夫をしたい。 ・ICT機器を活用した学習にとりくめている点に、本校の特色が表れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○通常の授業で、友だちの考えを受け止めて自分の考えをしっかり伝えた <68.0/82.6> ○授業で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した <32.0/63.5> ○授業で、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作りだしたりする活動を行った <44.0/67.2> ○学習した内容について、わかった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげた <56.0/78.3> ○学級での話し合い活動により、解決方法を決めている <48.0/73.4> ○授業で週に1度以上ICT機器を使っている。 <68.0/40.1> ○ICT機器を使った意見交換や調べ学習を週に1度以上行っている <52.0/39.0>
【自尊感情】	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情が低い。 ・将来の夢や目標を持っている子どもの割合や、最後までやり遂げるようにしている子どもの割合が低い。 ・人の役に立ちたいという思いが強い。 ・失敗を恐れる傾向が強く、難しいと感じることに向き合うことができていない。 ・子どもたちがやりたいと思えることで、人の役に立てるような場面を設定していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分には、よいところがあると思います <60.0/74.3> ○将来の夢や目標を持っています <64.0/80.3> ○人の役に立つ人間になりたい <92.0/95.5> ○自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている <76.0/84.3> ○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している <56.0, 70.9>

<p>【家庭学習の様子】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均と比較すると、積極的に家庭学習や読書をしている子どもがとて少ない。 ・家庭学習や読書に積極的にとりくめるよう、子どもたちが自己調整できるように促していくとともに、保護者に協力していただけるよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか <64.0/74.0> ○学校の授業時間以外に、平日に1日当たり30分以上しか勉強をしない <36.0/13.0> ○学校が休みの日、勉強を全くしない <48.0/10.2> ○学校の授業時間以外に、平日にはまったく読書をしていない <40.0/24.0>
<p>【家庭生活の様子】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食や就寝・起床時刻については、概ね肯定的な回答が多い。 ・子どもたち自身にメディアバランスについて考えることを促すとともに、保護者に家庭でのルールを再確認していただけるよう啓発していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食を毎日食べています <88.0/94.9> ○毎日、同じくらいの時刻に寝ています <88.0/81.2> ○毎日、同じくらいの時刻に起きています <88.0/81.2> ○スマホやコンピュータの使い方について、家の人との約束を守っている <60.0/70.1> ○普段、テレビゲームを2時間以上する <64.0/53.7>
<p>【新型コロナウイルス感染の影響】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休校期間中の勉強に対する不安感の低さが、計画的な学習ができた子どもの割合の低さに関係していると言える。 ・休校期間中は、生活リズムが乱れた子どもが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校が休校していた期間中、勉強について不安に感じていた <48.0/55.2> ○学校が休校していた期間中、計画的に学習ができた <60.0/64.6> ○学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた <56.0/63.1>

本校の取組

◎これまでの取組

特認校の特色として ICT 機器の活用を掲げ先行的にタブレット授業を進めていたこともあって、子どもたちの ICT 機器の基本的活用力は高い。その中で、ほとんどの子どもたちは授業中まじめに席について学習に取り組んでいる。しかし、一方で、一部の子どもたちの中に無気力であったり、気分が乗らないとおしゃべりをしてしまったり立ち歩いたりする者がいるし、おとなしく授業を受けている子どもたちの中にも積極的に授業に向き合っているとは言い難い子どもたちもいる。「自ら学びに向かう力」をつけることが喫緊の課題である。

言葉で自分の思いを伝えることが苦手な子どもたちが多く、人間関係の構築にも悪影響を及ぼしている子どもも少なくない。スキルを積み重ねながら、表現力・発信力をつけていきたい。本校の長年の課題であるが「書く力」の不足が依然として感じられる。単に文字を書くことだけでなく、自ら課題を整理し、まとめ、分析して表現するまでの手立てとしての「書く力」の不足である。本校の研究主題にも設定しているが、「自ら考えること、思いをうまく伝えあいながら学びを深め合うこと」を意識しながら、今後、クロムブックを活かした新しい「書く力」の充実も図りたい。さらに、主体的に学ぶ姿勢や対話的に意見や思いを深めていく態度を養うことが必要である。そのためには、各教科を独立的に考えるのではなく、教科を横断的・合科的につなぎ、総合的な学習の時間や生活と結びつけ、本校の特色を加味した授業づくりの研究を進めたい。

本校が本年度取り組んできたこととして、次の点が挙げられる。

- ・ 情報活用能力一覧表に掲載のある目標を意識し、具体的な実践を積み重ねている。
- ・ 自ら考え、学びを深め合う子どもの育成のため、『協働学習』を推進している。子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学びを ICT の利活用を通して主体的に探究する力の向上と重ねた形で研究を進めている。
- ・ クロムブックのクラスルームを活用した授業実践を積み重ねている。お互いの授業実践の交流も毎月時間をとって行っている。
- ・ 学習者用デジタル教科書を用いた実践を進めている。
- ・ ユニバーサル授業として、ステップ学級でもクロムブックの活用を積極的に進めるとともに、個別最適化した学びを常に意識している。
- ・ めあてやふりかえりを授業の中に位置づけ、視覚化することで、すべての子どもたちにとってわかりやすい授業をめざしている。
- ・ 家庭学習の充実のために「自学」の取り組みを定着させ、また内容を高めていくように指導している。
- ・ 学習環境の大切な要因として学習規律をとらえ、子どもたちに伝えている。当たり前のスモールステップの学習ルールから校内で意識確認をするなどの取り組みを進めている。

◎これからの取組

- ・ 知識の詰込みから、いかにその知識を活用し社会において役立つ資質・能力を育てるかに重点を置いた学びに移行していく。(コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースへ)
- ・ 研究主題である「自ら考え、学びを深め合う子どもの育成～協働学習と ICT の利活用を通して、主体的に探究する力の向上を図る～」を再度見直しながら、協働学習の展開により、思いや意見を交流し合い深め合い発展させていくような学びを進める。そのためにもデジタル・シティズンシップ教育 (ICT スキルやモラル学習に相当するもの) も大切にしたい。
- ・ 学習者用デジタル教科書 (算数) の活用を通して、ICT 機器を活用した学力向上の取り組みを模索していきたい。
- ・ 家庭に対する丁寧な情報発信を意識し、保護者を巻き込んだ家庭学習の充実を図る。
- ・ ICT 機器の活用した「交流」「出会い」「発信」について積極的に取り組み、他者とのつながりを通して、子どもたちの自尊感情を高める取組みを充実させる。
- ・ 本校の特色である「ICT 教育」を充実させることを、子どもたちの卒業後の「自信と誇り」につなげていく。